

海岸利用者における地域愛着意識に関する研究

―片貝海岸を事例として―

スポーツマーケティングゼミナール 1315047 西崎 賢

1. 研究動機・研究目的

観光は、我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野である。経済波及効果の大きい観光は、急速に成長するアジアをはじめとする世界の観光需要を取り込むことにより、地域活性化、雇用機会の増大などの効果が期待できる（観光庁, 2017）。国内の交流人口の増加を目指すうえでレジャーへの期待が高まる一方で、以前はレジャーの代表格であった海水浴が1980年代を境に減少傾向にある（前河, 2015）。千葉県九十九里海岸においては、千葉県の調査（2018）によると2002年に開設された海水浴場は81箇所であり、開設期間中における海水浴客入込数は447万2千人であった。しかし、年々海水浴客の減少とともに開設される海水浴場の数は減少する傾向にあり2018年には、開設された海水浴場は60箇所、海水浴客入込み数は約130万6千人まで減少している。日本は、中緯度帯に存在し、南北に細長く伸び四方を海に囲まれた島国で、海岸線34,568kmを持ち、環境的には海洋スポーツ・レクリエーションの場に恵まれている（柳, 1998）。しかし、2008年から毎年行われている「海に関する国民意識調査」の結果より、若者の海離れの傾向が明らかになっている。

観光立国推進基本法施行（2007）により、国土交通省をはじめ市町村が海岸開発を行っている。魅力ある観光地を形成するための足がかりとして、来訪者の観光地に対する評価を捉えることの重要性が指摘されている（観光庁, 2010）。しかしながら、千葉県商工労働部観光企画課の調査より、観光・レクリエーション施設、宿泊施設、海水浴客、プールの入込状況の現状は明らかになっているが、個人属性や利用満足度など海岸の利用実態は明らかになっていないため、海岸利用の実態と地域愛着との関係を調べる必要があることを述べる。本研究では、九十九里海岸の交流人口の増加につながる海岸利用のあり方を模索するため、海岸利用者の実態と、海岸利用者に対する愛着意識に与える影響とその影響要因を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究は、2018年11月10、11、15、16日に千葉県九十九町片貝海岸来訪者を対象に質問紙調査を行い、直接配布・回収法を用いて回収を行った。総配布数は71部で有効回答数は71部であった。調査項目は、個人的属性として、谷口ら（2012）の既往研究でも関係性が指摘されている年齢、性別、居住地、来訪回数に加えて、片貝海岸利用者の実態を明らかにするために交通手段、同伴者、利用目的、イベント参加の有無、イベントの参加意向を設定した。また、地域愛着意識に関する項目は大谷ら（2003）が作成した選好・感情・持続願望の三つの指標、計12項目を使用することとした。収集したデータに対して統計ソフトIBM SPSS Statistics 21を用いて統計処理を施した。

3. 主な結果と考察

サンプルの個人属性の集計した結果、年齢の平均は46.7歳であった(無回答1名)。男女比は、男性が53.5%(n=41)、女性が42.3%(n=30)であった。居住地は、九十九里町、千葉県内、千葉県外の3つに分けてみると、千葉県内が最も多く50.7%(n=36)であった。次いで九十九里町が16.9%(n=12)であった。最も少ないのが千葉県外で32.4%(n=23)であった。来訪目的は、サーフィン59.2%(n=42)、海や砂浜、自然を楽しみに47.9%(n=34)、のんびり休みに36.6%(n=26)、散歩35.2%(n=25)、釣り14.1%(n=10)であった。

年齢、交流度、来訪回数、来訪満足度の地域愛着への影響を明らかにするため、尺度間の相関分析を行った。その結果、年齢が3つの地域愛着意識にそれぞれ有意な相関関係が認められた。また、来訪満足度と地域愛着(選好)に有意な相関関係が認められた。しかしながら、統計的には有意差が見られたが低い相関であった。地域愛着の3因子である「選好」、「感情」、「持続願望」に来訪満足度の項目に関して「選好」に有意差が認められた。加えて、地域愛着の3因子間に有意な相関関係が認められたことから、先行研究と同様に地域愛着の構造について、地域愛着(選好)から地域愛着(感情)と地域愛着(持続願望)へと段階的に進む可能性が海岸においても当てはまると考えられる。

4. 結論

海岸利用者の地域愛着意識には、年齢、居住地、来訪満足度、イベント参加の有無といった項目が影響を与えることが明らかとなった。片貝海岸で行われているイベント参加者の半数以上は九十九里町の住民であり、千葉県外からの参加はほとんどなかったが、九十九里町民よりも千葉県内と千葉県外からの来訪者の方が、イベントに参加してみたいという傾向が高いことが明らかとなった。

以上の結果から、九十九里海岸の交流人口の増加につながる海岸利用のあり方として、イベント参加経験が地域愛着の規定要因になると考えられる。自治体が本海岸利用に関する施策を検討する場合、イベントの存在を知らない人が多いことから、地元の人には参加意向の高い海開き式やふるさとまつりや花火大会を、県外からの利用者には元旦祭を中心に、片貝海岸のブランディングをしてイベント参加を促す広報活動が有効な手段であると考えられる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆にあたって、ご協力頂いたすべての方々に深く御礼申し上げます。そして、指導教員である工藤先生には大変お世話になり心より感謝しております。自分自身の好きな分野について、卒業論文という形で研究できたことを嬉しく思います。また、楽しい時も辛い時も一緒に過ごしたゼミ員がいたからこそ、2年間頑張ることができました。かけがえない仲間に出会えたことに感謝しています。誠にありがとうございました。

主な引用参考文献

谷口綾子, 今井唯, 原文宏, 石田東生 (2012) 「観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究—ニセコ・倶知安地域を事例として」 土木学会 論文集 D3 土木計画学 (2012) 68 (5) p. 551-562.